

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎西部地域療育センター保育所等訪問支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年11月10日	～	令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和7年11月10日	～	令和7年11月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 14	(回答者数)	14
○訪問先施設評価実施期間	令和7年11月10日	～	令和7年12月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数) 6	(回答数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設の状況や担当者のニーズを把握し、優先順位を考えながら、訪問施設で取り組むべきことを提案することを心がけている。	事前に訪問先施設と情報交換するとともに訪問した際に丁寧にこどもの実態と支援方法について意見交換しながら課題を整理している	訪問先施設の状況に合わせて支援プランを立てることを大切にしながら、訪問先施設の担当者が取り組みやすい具体的で実践的な支援アイデアをスタッフ間で蓄積していく
2	心理士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・看護師・保育士・指導員などの職種で訪問支援チームを構成して、こどものニーズに対応する専門的な支援を提供できる体制がある	訪問支援チームで定期的なミーティングを行い、それぞれの訪問先施設での支援内容のについて、情報共有するシステムにしている	訪問先施設での支援内容をより掘り下げて検討できるようなカンファランスを行うようにしていくなど、支援効果を検証していく
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援でサービスを提供する前の段階として、支援の対象とすることの選定基準を広く職員間で共有して、よりこのサービスが効果的におこなえるようにする	相談数の多さ、年齢や障害も多様化し、療育センターとしても様々な支援をすでに展開している現状がある	療育センターとして行っている(行える)支援と保育所等訪問支援としての支援について、対象となり得るこどもへの効果を確認しながら、一定の判断基準を整理していく
2	多職種間でのチームアプローチが可能であるメリットの反面、タイムリーに情報共有を行ったり、組織的に活動することの難しさもある	保育所等訪問支援員との兼務で各専門業務を行う中で、ミーティング時間の捻出など、業務調整が必要な状況がある	業務の優先順位、役割分担を明確にし、組織的な業務運営ができるようにしていく。また、事務的な業務について、各担当者が効率的に行えるように取り組んでいく
3			